

らが自らの問ふ執拗なる Frage を逃れんとして無限に假面を覆らなくてはならないのではあるまいか。そしてそれがあたかもそれを逃れ得るけれども、しかし又、かへつてもつと深い苦しみをも與へるところの「詩」の領域への一つの出發點ともなり得るのではあるまいか。(未完)

註

- (一) S. H. Butcher, Some Aspects of the Greek Genus. (希臘天才の諸相(田中和辻兩氏譯))
- (二) Grote, Aristoteles, I. p. 380.
- (三) ヴ ヴ
- (四) ヴ I. p. 75.
- (五) 思想(第三十九號一八三頁參照)
- (六) G. Brandes, Die Literatur des 19. Jahrh. in. Hauptströmungen. Bd II. (吹田順助氏譯)
- (七) Steinthal, Kleine Schriften, s. 274
- (八) F. v. Schlegel, Philophy of Language. p. 354—364.
- (九) Leibniz, New. E. c. Human Understanding. tr. b. Langley II. 369—370.
- (十) W. Dilthey, G. S. B. II. s. 152
- (十一) Dilthey, D. Aufbau d. geschichtlichen W. i. d. Gw. s. 83 ff.

- (十一) H. Wenke, Hegels Theorie des objektiven G. s. 122
- (十二) Kuno Fischer, Leibniz, s. 405—426.
- (十三) Lazarus, Geist u. Sprach s. 343.

彙 報

昭和二年度卒業論文題目 ○印選科生

○哲學專攻

ドロイセンの「歴史學綱要」について	望月 参 伍
カントに於ける主觀的普遍に就きて	石川 潜 神
アウグスチヌスの Discentio Animi としての時間について	服部 英 次 郎
自我の問題	芳 岡 良 音
フイヒテの「知識學」に於ける「實踐的自我」について	竹 内 雪 英
ヘルダソンの時間	西 村 嘉 三 郎
テイレルタイに於ける認識的についての一考察	富 岡 益 五 郎
ミヘーリングの「自由意志論」と宗教的自由	大 槻 周 吉
表現を理解	加 藤 清 則
物自體下意識一般	吉 田 竹 一

ヘーゲル哲學に於ける「概念」に就いて

竹下直之

カントの物自體に就いての一考察

丹 頤

感覺の演繹

永山光生

連續體に於ける無理性に就いて

山本威雄

個性の問題と反省的判斷力

高山岩男

アリストテレスのキネシス(Kinesis)に就いて

小島威彦

現象學に於ける反省と純粹自我に就いて

淺井 潔

命題「我思ふ」の批判

齋藤勝次郎

カントの認識論に於ける自然

佐々木乾三

フイヒテの構想力に就いて

雄本時哉

カントの圖形論に就いて

木村秀夫

ライナツハの否定判斷について

宮地義亮

藝術學と藝術哲學

清水光繁

カントの感覺につきて

東 貞 一

プラトンに於けるイデアを見る魂に就いて

守谷英次

カントの Theologie に就いて

小田秀人

シユライエルクマツヘル「宗教論」について

○植村晋六

歴史的社會的生活の理論、宗教的世界觀の夫に對して持

○大 窪 昌

つ意義

○河合 陟 明

天地間唯一の開顯包容統一の絶對宗教

○河合 陟 明

プラトンの「ロゴス」に伴へる「真思斷」

○上 田 忠 雄

演繹作用

○小 立 稔

認識の現象學的解明に就いて

○速 水 敬 二

○西洋哲學史專攻

意識一般に就いて

○草 薙 正 夫

○印度哲學史專攻

唯識卅頌に於ける縁起と實相との一考察

二上 令 從

墨鬱傳考

伊 藤 信 一 郎

慧遠について

大 泉 源 一 郎

天台教判成立の來由に就いて

能 仁 國 三 郎

慧能大鑿ニ就イテ

小 出 憲 宗

一遍上人とその教團に就いて

妹 尾 吉 次

般若波羅蜜多理趣三昧論

○高 岡 信 治

○心理學專攻

Nous et Aohノ意志説ニ就イテ

飯 田 順 雄

原始人の祈禱について

岡 本 久 長

行動の發展段階に就いて

加 藤 正 英

犯罪者の素質に就いて

中 林 利 一

精神分析の複合に就いて

佐 藤 幸 治

「ゾント」ノ個人心理ニ於ケル基本問題

○宇 都 宮 仙 太 郎

○倫理學專攻

倫理と宗教

シュプランガーの倫理學

アリストテレス倫理學ノ限界

○教育學教授法專攻

早教育の情意方面に就いて

精神生活の特に個性の理想的類型の心理學

ヘルバルトに於ける實踐理念と宗教との關係に就いて

教育の可能について

プラトリーの教育的理念と其方法

Yerschan に就いての一考察

教育ノ中心思想トシテノ宗教

○美學美術史專攻

見ゆる世界(フリードラー)

○宗教學專攻

ウオバミミンの宗教哲學

自由論と目的論を中心として見たるカントの歴史哲學

トレルチの宗教哲學の展開

ヘーゲルの宗教哲學

加來文雄

東原勝郎

小田清

大塚喜一

福島眞喜一

後藤三郎

日置茂治

石崎恒次郎

湯川章平

藤井源一

池田健三

片山正直

竹村菊太郎

篠田一人

シュライエルマツヘル宗教論

○社會學專攻

社會の虚偽性(Tarde 研究断片)

マックス、ウエバー社會學の方法論的なるもの

支配關係に就いての一私稿

形式社會學に於ける社會的過程の意義

社會學的認識ノ基本範疇トシテノ社會的行動ト社會的關係

個人と社會との關係に就いての一試論

ギティンガスの社會の概念と其の基本的形態

テンニースの社會關係の思想に就いて

社會學の方法としての理解に就いて

昭和三年三月文學部卒業生

○哲學專攻

○豊田武治

梯明秀

根本辰

井上隆證

林稻苗

沈龍眼

沼間昌教

内藤理入

庄静夫

○谷崎保治郎

高山岩男

服部英次郎

守谷英次

木村秀夫

小田秀人

岩本時哉

竹下直之

野藤勝次郎

淺井潔

頼加藤清則

高山岩男

服部英次郎

守谷英次

木村秀夫

小田秀人

雄本時哉

竹下直之

野藤勝次郎

淺井潔

頼加藤清則

小島威彦

東貞一

宮地義亮

山本威雄

頼加藤清則

芳岡良音

石川潜神

永山光生

竹内雲英

西村嘉三郎

大槻 周吉 富岡益五郎 望月 參伍 清水 光繁
佐々木乾三 吉田 竹一

○印度哲學史

大泉源一 妹尾 吉次 伊藤信一 能仁國三郎
二上 令從 小出 憲宗

○心理學專攻

佐藤 幸治 飯田 順雄 加藤 正英 岡本 久長
小林 利一

○倫理學專攻

小田 清 東原 勝郎 加來 文雄

○教育學專攻

三木 知一 後藤 三郎 福島眞喜一 日置 茂治
大塚 喜一

○美學美術史專攻

藤井 源一

○宗教學專攻

片山 正直 竹村菊太郎 篠田 一人 池田 健三

○社會學專攻

庄 靜夫 沈 龍眼 內藤 埋八 梯 明秀
井上 隆澄 根本 辰 沼間 昌教 竹 稻苗

○哲學專攻

速水 敬二 小立 稔 大窪 昌 上田 忠雄
植村 晋六 河合 陟明

○西洋哲學史

草薙 正夫

○印度哲學史

高岡 信治

○心理學專攻

宇都宮仙太郎

○教育學教授法專攻

湯川 章平 石崎恒次郎

○宗教學專攻

豐田 武治

○社會學專攻

谷崎保治郎

昭和三年三月文學部選科修了生

寄贈雜誌新聞

(昭和三年二月・三月)

螢雪集第一附國維運動の提唱

寄贈雜誌新聞

寄贈圖書

哲學雜誌	昭和三年二月號	第四九二號
丁酉倫理會講演集	同 三月號	第三〇五輯
哲學青年	同 三月號	第一卷第五號
東亞之光	同 三月號	第廿三卷第二號
生理學研究	同 二月號	第五卷第二號
教育心理研究	同 三月號	第三卷第三號
精神科學	同 二月號	第三卷第一號
學校教育	同 三月號	第一七七號
帝都教育	同 二月號	第二七五號
靜岡縣教育	同 二月號	第三七〇號
信濃教育	同 三月號	第四九七號
社會學徒	同 三月號	第二卷第三號
奈良縣教育	同 三月號	第一八〇號
願 慧	同 三月號	

三月十二日

帝國大學新聞 昭和三年二月二十日、二月七日、三月五日

人體の根本と疾病の原理

金鷄文證第三 金鷄學院刊行
宮澤門治著
筋肉病理研究所發行